

タイトル	(和文) 外国人から見た神戸港の魅力に関する詳細な調査分析—横浜港との比較考察— (英文) In-depth Research Analysis on the Attractiveness of Kobe Port from the Viewpoint of Foreigners : A Comparison with Yokohama Port		
研究報告希望部会	西部部会 神戸開催 2020年 1月11日	(フリガナ) 氏名	フジサキ タケシ 藤澤 武史
キーワード (3語)	神戸港 横浜港 港の魅力度	ご所属	関西学院大学
報告時の言語	日本語		
(和文要旨)			
<p>外国人が主に観光地として一部は居住先エリアとして神戸港と横浜港にどの程度魅力を感じるかを調査した結果を踏まえ、両港の魅力度の要因分析に焦点を当てる。港の眺望を好む時間帯で横浜は昼、神戸なら夜が人気を博すものの昼夜同等派が圧倒的に多い。両港間で風景イメージに違いがあるかどうか、χ^2乗検定から導き出す。知名度が高く初訪問者が憧れる横浜港と異なり、神戸港の支持層は高リピーターと昼夜同等派から成るため、再興には独自の来港満足度向上策を要す。</p>			
(和文報告概要)			
<p>神戸港と横浜港に対して外国人の観光客や一部の居住者が感じる魅力度を比較考量し、両港に特有な魅力の要因分析を試みることで、本調査研究の目的となる。</p> <p>アンケート調査表は日本語版、英語版、中国語版と3種類用意した。使用言語によって質問の意図と選択肢への解釈が異ならないよう、事前にネイティブスピーカーと協議した。</p> <p>2018年10月20～21日、横浜港を臨む山下公園を拠点とし、みなとみらいでも調査を行い、34名から有効回答を得た。11月4日に神戸ハーバーランドを起点とし、中埠頭にも足を伸ばし、52名の有効回答を回収した。神戸、横浜ともに調査項目と選択肢は同一である。訪問経験度、来港希望度、風景を見たい時間帯別(昼、夜、双方)選択、港へのイメージ(7つの属性)などで問う。両港のクロス比較が容易となり、調査日は快晴で気温もほぼ同じゆえ、調査内容は比較可能となる。</p> <p>本報告では、両港の比較分析結果を記述的統計に加えて、平均値の有意差検定、比率の差の検定を用いて、比較可能性と厳密性を追求する。その上で、神戸港が横浜港との差異化を図って外国人から選好される可能性を示す。最後に、神戸港再興戦略の課題を提起し、問題解決の方途を編み出す。なお、本報告要旨では紙幅により、主な調査結果のみを開示するとしよう。</p> <p>第1に、神戸港選好度に関して、初来港者29名の平均値が4.034(標準偏差=0.865)に対し、リピーター23名では同4.609(0.499)となる。両群における選好度の平均値の有意差検定を試みたところ、t値=3.00となり、有意水準1%未満でリピーターが初来港者に有意差を付けて神戸港選好度が高い。横浜港選好度については、初の来港者23名の平均値が4.261(標準偏差=0.541)とリピーター11名の平均値が4.636(標準偏差=0.505)となり、横浜港選好度についてはt値=1.983より、有意水準5%未満で来港歴2回以上を有した回答者が初来港者に比べ、横浜港を一段と好む傾向が見い出せた。</p>			

第 2 に、神戸港における再訪希望度の平均値は、初来港者が 4.034 (標準偏差=0.865)、リピーターが 4.609 (0.499) である。t 値=4.165 より有意水準 0.1%未満で、リピーターは初来港者に大きな差を付けて神戸港再訪を熱望している。横浜港への再訪希望度に関しては、来港歴 2 回以上の回答者群が平均値 4.455 (標準偏差=0.820)、初来港者群の平均値 4.130 (標準偏差=0.815) を上回るが、t 値=1.08 ゆえ、両群に平均値の差は実質見られない。

第 3 に、外国人が港の景観を好んで楽しむ時間帯別の港選好度 (平均値で表示) を見る。神戸港の場合、昼景色派 10 名 (4.2)、夜景派 7 名 (4.714)、昼夜同等派 35 名 (4.454)。昼景色派と夜景派とでは t 値=1.890 より、有意水準 10%未満で有意差が夜景人気に認められる。横浜港では昼派 13 名 (4.231)、夜派 3 名 (4.333)、昼夜同等派 18 名 (4.556) となり、相対的に昼派が多い。

第 4 に、風景 (眺望) から受けるイメージに関して、神戸港では計 110 票 (複数回答可) のうち、第 1 位から 3 位まで、異国情緒 30 票、現代 29 票、幻想 28 票と並ぶ。横浜港では計 98 票のうち、現代、異国情緒、幻想が 24 票ずつと最上位を占める。両港のイメージ要素は酷似している。

第 5 に、横浜港を眺望対象としたイメージ属性の違いが眺望時間帯への選好の差異に影響するかどうかを検証するため、帰無仮説「横浜港の風景について昼、夜、双方の中からいずれが特に好まれるかに、横浜港に対する印象属性の違いは関係しない」を立てる。 χ^2 二乗検定により独立性検定を行った結果、 χ^2 二乗値=18.178 自由度=12 有意水準=0.110。有意水準 10%未満でないため、帰無仮説は棄却できない。神戸港にも χ^2 二乗検定を適用し、有意水準=0.384 を得た。ゆえに、横浜港の風景の方が、昼派、夜派、昼夜同等派から印象属性の違いが意識され、風景イメージの識別度は高い。この傾向は、横浜港を最も強く好むのは昼夜同等派という調査結果の原因解明に役立つ。昼だけ、夜だけでなく、昼夜とも眺望して飽きないのは昼と夜の風景イメージの違いを感じるから。

過去類似した発表 (論文等を含む) がある場合、その研究との関連性および相違点について明記してください。

2019 年 1 月に同志社大学で開催された日本貿易学会西部部会で本テーマの第 1 弾を発表したが、アンケート調査の集計値のみを公表するにとどまり、分析は一切為されていない。

本調査の目的とする客観性を保つ比較分析に踏み込むのは本応募による発表機会が得られて初めてとなる。1 年前には全くなかった仮説の構築、有意差検定と比率の差の検定のための統計手法の活用、両港の魅力に関する客観的な比較考察、希望する眺望時間帯別に分けた両港への選好性に関わるイメージ属性の差異の抽出、調査結果に関する本格的な分析とその後の比較考察、それらを踏まえ、横浜港との対比から得られる神戸港再興戦略のための政策提言は本報告が初めてとなる。

アンケート調査の終了から 1 年が経過し、多くの分析を試みた成果を公表できる体制が整ったし、神戸でおよそ 11 年ぶりに日本貿易学会西部部会が開催されると知り、神戸に因んだテーマを以て報告機会を得たいと強く希望した次第である。